

私はこの東京方面企業大学訪問を通して実際に自分で見たり聞いたりしたことは将来の進路を考える上で貴重なものとなりました。夏期プログラム、企業訪問、仙台二高 OBOG 座談会、FairWind 企画その一つ一つがなかなか出来ることではないのでとても充実した二日間でした。

夏期プログラムでは近藤玄大氏による講演そしてディレクトフォース・笹川平和財団の方々との対話を通じて実際に社会で活躍してきた人はどのようなことをしてきて何が大切なのかということを知ることが出来ました。

近藤玄大氏の講演では従来の義手とは違う視点から考えた義手を作るまでの話を聞き、驚きを感じました。従来の義手といえば手または腕が無いという障害を隠すという目的だったのに対して近藤氏は義手を自己表現の一種として捉えたことは自分にとってはなかなかできるものではないように感じました。でも実際の近藤氏の作った義手を見てみるとメタリックの格好いい感じのデザインでまさにファッションの一部だなと思いました。近藤氏がはじめに話された「モノづくりは映画製作のようなもの」という意味が最初は分からなかったものの話を聞いたあとではとても理解できました。

ディレクトフォース・笹川平和財団の方々との会話で私のグループでは水口泰介氏・守屋雅夫氏・藤井麻衣氏の3人とお話をさせていただきました。水口氏とは飢餓と食料についてお話をしました。それを通して飢餓を無くすためには協調の和をつなげることが大切ということが分かりました。先進国と発展途上国などの世界規模だけでなく、1人1人が食べ物を大切に扱うことで大きな貢献は出来なくとも無駄に廃棄されてしまう食べ物を減らすことは出来ます。守屋氏とは新商品開発と壁の乗り越え方についてお話をしました。新商品開発だけではなくあらゆることにおいて何度失敗してもそこで止めるのではなく、全力でやり続けることが大切で、そうすることにより、その分野に対して詳しくなれるということが分かりました。藤井氏とは専門性の大切さについてお話をしました。自らの専門性をしっかり決めることでその能力を活かせる職場で働きやすくなり、自分というもののアピールポイントをつくることも出来ます。

企業訪問で私のグループは経済産業省に訪問しました。私は班長だったためまずアポイントメントを取るところから始まりました。私は今回が初めてのアポ取りで、とても緊張しましたが取ることが出来た時はその分達成感も大きかったです。そして実際に訪問してみて、将来ここで働いたら楽しいだろうなと思えました。経済産業省は国民を豊かにするという共通のミッションのために経済産業・貿易・特許・エネルギー・中小企業の主に5つの分野に分かれて取り組んでいます。また経済産業省は風通しが良く、あまり堅苦しさのない職場ということでした。そして喋るのが好きな人、静かにコツコツやる人、根回しをする人など様々なタイプの人がいるそうで私自身のイメージしていた堅いというものもいい

意味で裏切られました。仕事としては主に 5 つに分かれた分野があるため配属課が変わる度にまるで新しい職場に転職したような感じらしく、様々な人とのつながりや経験が得られるということでした。私は将来経済産業省に就職したいと考えており、こうして実際に行ってみたことでどのような職場かを知ることができたということはとてもためになる経験でした。

仙台二高 OBOG 座談会では二高の先輩方で東大に行っている先輩方に様々なことを聞くことが出来ました。様々な学部の先輩がいて東大というものがどのようなものなのかをおおまかに知ることが出来ました。東大の1年生と2年生の前期までは教養学部というものに入っており、自分の興味のある分野の授業を好きに取れるということを知り、自分の専門的に知りたい学問を学びつつ、ほかの学問にも手を出すことができ、そうすることで知見も増やせていいように感じました。そして、入学する前に学びたかった学問でも、実際に授業を受けてみて思っていたのと違かった場合、他の学部に入ることも可能というのもいい点だと思いました。また勉強面については基本となるものを大切にして、しっかり身につけることが大事であり、必ずしも塾に行く必要もなく、しっかり自分のやり方(上手くいっているのなら)を下手に崩さないことも大事なのだと教えてもらいました。

自分として1番驚いたのは自分としては東大に行くくらいだから1年生のときからずっと勉強してきているような人たちがばかりなのだと思っていました。しかし実際聞いてみると決してそのような人ばかりではなく、それなりに遊んでいたという人も多く、基礎をしっかり固めれば3年生の時に楽なのだと思いました。

FairWind 企画では実際に東大に行き、生の学生の声聞いたため、OBOG 座談会で聞いていた東大のイメージのより具体的な部分を知ることが出来ました。最初は駒場キャンパスに行きました。駒場キャンパスでは建物の案内をしてもらい、図書館の大きさに驚きました。蔵書数がとても多く、自習スペースも豊富でした。その後、「進路を見つめ直す」というワークショップを行いました。2人の現役東大生の異なる進路の決め方を聞き、どちらが自分にあっているのかというのを聞きくらべ、とても参考になりました。その二つというのは1人は自分の学びたい学問が具体的に決まっていなかったけれど、東大は前期教養課程があるので実際に入学して学問に触れたあとで自分にあったものを選んだ人で、もう1人はもともと学びたい学問が決まっていて、そこから逆算するような形で大学を決めたというものでした。自分としては後者のタイプだったのでしっかり参考にさせてもらいました。

次に本郷キャンパスに移動し、最初に現役学生との個別相談会という形で質問をさせていただきました。そこでは主に高校での普段の勉強・受験対策の仕方について教えていただきました。自分として一番悩んでいるケアレスミスについて聞いた時にその悩みを共感してもらうことができ、東大生といえどもケアレスミスをするのだと驚き半分嬉しさ半分で

した。そしてその対処法についても教えてもらうことが出来、話すのが楽しく感じました。その後模擬授業を受けてみて、大学の授業はやはり高校の授業とは全く形式が異なっており、新鮮さがありました。

今回の東京方面企業大学訪問は私にとって将来の進路を決めるための材料となるものを数多く与えてくれました。以前まではぼんやりとしたイメージしかなかった東大や経済産業省は実際に行き、見て話を聞いたことでどのような場所なのかを知ることが出来ました。そして経済産業省に関してはなぜここに自分は行きたいのかここで何をしたいのかということを考えるきっかけになりました。そのおかげで明確な目標ができたような気がします。また OB の先輩に言われた「行きたいではなく行く」と思うことが大切という言葉で自分の気持ちが相当甘いものだったんだと分かりました。私は今回この経験を積むことができ、本当によかったです。そして生涯これらをまたやることは正直ないような感じます。だからこそこの大切な経験をしっかりと頭に留め、自分の目標を見失いそうになった時、本当に見失ってしまわないように自らの指針としてこれから頑張っていきたいと思います。楽しさ、学び、経験様々なものを得ることのできたとてもいい研修でした。